［その１］

豊かな森林を未来にのこそう

# もりのかぜ だ・よ・り

第33号
認定非営利活動法人 森林の風
会長瀧口邦夫/平成30年10月発行

8月5日、まなびの森に「森林の風、祭り」を開催しました。（ドローンにて撮影）

第33号
ラインナップ

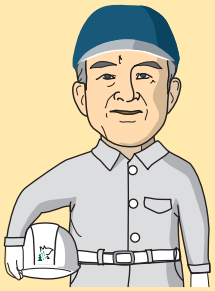
・挨拶「森林環境保全のを考える」 ❷
・御在所岳国定公園制定50周年記念植樹祭 ❷
・レベルアップ研修報告（8/26 高田先生） ❸
・＜里山の雑学＞「水の目林」、「水持林」、「水根林」は、どのような林だろうか？ ❹❺
・「2019年 まちのきこり人育成講座」募集開始のご案内 ❻
・チャレンジ成果報告 ❼
・森林の風現在の状況 ❽

森林施業 認定NPO法人 森林の風（もり）

連絡先／〒512-0933 三重県四日市市三滝台４丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088
菰野事業所／〒510-1251三重県三重郡菰野町千草7045-82
http://www.morinokaze.info ＊詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

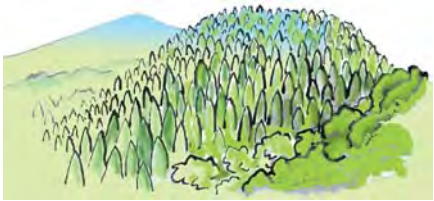
# 森林環境保全を考える

認定NPO法人 森林の風　会長　瀧口邦夫



13年目を終えた「まちのきこり人育成講座」、14年目も開催します。
同時に多くの林業家の技術の知識習得や優良山林の見学、で“先人の知恵を学ぶ“事の大切さを進めています。
「地球温暖化」「ゲリラ豪雨」「迷走台風」「山腹崩壊」などの言葉をよく耳にする今年の気候。森林の叫び声かも知れません。森林環境保全に関して、改めて真摯に向き合い考えたいと思います。

# 「御在所岳国定公園制定50周年記念植樹祭」が開催されました。



記念プレート

7月26日(日)晴天に恵まれ、「御在所岳国定公園制定50周年記念植樹祭」が開催されました。三重県知事、滋賀県知事および、近隣市町の首長、各県議会議員と、地元、菰野町みどりの少年隊34名および永源寺緑の少年団39名の参加により記念植樹並びに記念宣言が行われました。
また、引き続き、菰野町と公益社団法人三重県緑化推進協会、三重県が主催する、「県民参加の植樹祭 in 御在所山上公園」が開催され、菰野町みどりの少年隊、永源寺緑の少年団により100本の植樹を行いました。
この二つのイベントの準備および植樹の支援を森林の風が担当しました。

菰野町みどりの少年隊
永源寺緑の少年団

記念植樹

# 報告！ Report レベルアップ研修レポート

## 「2018まちのきこり人育成講座」

**8月26日（日）猛暑の続く中、「NPO法人 森林再生支援センター」常務理事の高田研一氏をお迎えして、第１回レベルアップ研修会を開催しました。参加者は、森林の風会員を含め24名でした。**

●午前中（9時から12時）は、森林の風のフィールドである、「アカガシの森」と「コメダの森」を見ていただき、その現場での講義をしていただきました。
「アカガシの森」では、パッチディフェンスの設置位置等について、「光の影響、基盤の状態及び設置後の植生の状態（草本等）」についてお話していただきました。光については、あまりにも皆伐状態にしてしまうと、直接、すべての太陽光を浴びることになり、樹木の生育には不適切であり、悪影響となる草本類が繁茂しやすいということ。できれば、周りに高木を残した状態で、木漏れ日が当たるような環境が苗木の生育には適切であるということでした。
また、設置している基盤の状態については、崩積土（土が崩れ落ちた所）上にあり適切であるとのことでしたが、個々の植栽苗については、地表の微地形（わずかな凹凸）を考慮し、排水の良さ、空気の状態等の良い場所を選んで植えると良いとのことでした。
「コメダの森」では、山の急斜面での間伐は降雨等による崩落の危険があるので、注意が必要であり、将来的にはこのようなところには、スギ・ヒノキの植樹は不適切であるとのことでした。できれば、根張りの広い広葉樹が適しているとのことでした。

日差しが強すぎて、草木類が
繁茂している状態

●昼食後（13時から15時）は、三重県民の森にあるふれあいの館に場所を移し、里山整備（森林環境保全）について、まず、林業という視点からではなく、菰野町の歴史、あるいは観光資源として里山のあり方等、をお話しいただきそれを踏まえて、高田先生のご専門である、自然配植の基本的な考え方、植栽基盤の形成、または、獣害対策（防鹿）を意識したランダム一様配植等、多岐にわたってご講義いただき、とても有意義な研修会となりました。

我々、森林の風は、このような研修会を重ね、ただ、森林を整備するだけでなく、新たな知識と発想を持って森林環境保全を考え活動するNPOを目指していきます。
今後も、このような研修会を数多く開催する予定です。

## 里山の雑学 3

《会員 伊坪　記》

# 地名“切畑”は焼畑農業に由来するか？

＝NPO森林の風の活動地「楽天の森」は、菰野町大字“切畑”に在る＝

### （１）切畑、その由来と歴史（参考文献⑥、図１）

NPO森林の風の活動地の一つ「楽天の森（楽天と連携）」は、菰野町大字切畑字清水に在る。大字切畑は、江戸時代末期には切畑村と云われ、忍（おし）藩（武蔵野国忍藩の枝藩）の所領であった。地理的には、朝明川の支流である田光川上流左岸の扇状台地の先端に位置し、近江と北勢を結ぶハ風街道の要所であったハ風峠の入口にあたる。歴史的には、戦国時代に近江の佐々木六角氏が、ハ風峠を越えて所領を伊勢の国まで広げたなどの古い歴史を持っている。また、１５戸ほどから成る小村ではあるが庄屋を有し、全戸が歴代にわたって大橋姓を名乗る由緒ある一村であった。

そもそも“切畑”と云う地名の由来は何であろうか、３説を紹介する。１番目は、山の雑木・草などに火をつけその焼け跡に、隔年ごとに稗・蕎麦等の作物を作り、山から畑へ切り替た焼畑農業に由来する説である。焼畑農業に由来する「切畑」がつく住所が、日本全土で６ヶ所程あると云う（新潟県五泉市切畑、和歌山県紀の川市切畑など）（参考文献①）。

２番目は、切畑村の全村民で祀る伎留太（きるた）神社に関わる説である。切畑は、伎留太が転訛したとも云われる（参考文献①②）。

３番目は、木地師発祥地の地名に関わる説である。木地師の祖と云われる惟喬（これたか）親王（844-897）が、晩年に居住した近江の国の地名「君ヶ畑」が訛って切畑になったと云われ、現在でもハ風峠を越えた滋賀県東近江市に「君ヶ畑」「大君ヶ畑」の地名が残る。近江の国の木地師は材料減少に伴い全国的に移住した。ハ風峠を越えた北勢にも移住し、大字切畑一帯が木地師の村として栄えたと云われる（参考文献①③）。

### （２）NPO森林の風活動地「楽天の森」

国道306号からハ風キャンプ場をめざして西進し、ハ風神社（競馬場）を通過後、田光川に架かる切畑橋を渡ると大字切畑に入る。直ぐ、左折して進むと左方に天神橋が見えて来る。

そのあたり一帯が、NPO 森林の風が山林所有者の大橋氏及び楽天と連携し、間伐による杉・檜林の再生を行っている「楽天の森」である（写真１）。鬱蒼として太陽光が入らない暗い林であったが、間伐の進行と共に明るさを取り戻し、現在ではかなりの日照時間を確保できる良好な林に再生している。

### （３）伎留太神社

天神橋を直進すると直ぐに二つの炭焼き小屋が見える。近年では珍しい現役の炭焼き小屋であり、運が良いと小屋からもくもくと煙が上がっているのに出会える。さらに登っていくと伎留太（きるた）神社に至る。主神「刈田姫命」を祀る神社であり、全15戸が年番神主と云う伝統制度を守っているとのことである（参考文献④⑤）。

## （４）切畑城跡

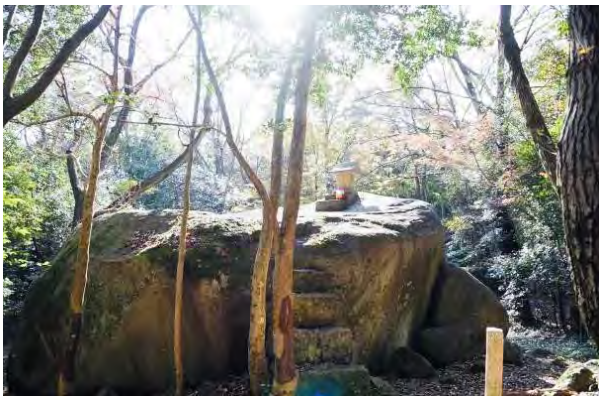
伎留太神社をさらに200mほど登ると切畑城跡に至る（大字切畑字猿ヶ尻）。城主は畑与九郎であったが、その出自は明らかではない。近江の国の佐々木六角氏の息のかかった豪族の一人とみられ、佐々木六角氏の伊勢進出に協力し、八風街道を制圧して戦国期に活躍したが天正5年（1577）に織田信長に滅亡させられた（参考文献③）。

この城は、釈迦ヶ岳の山麓に飛び出る台地上にあり、北及び東側は友谷川へ落ちる急峻な　斜面、南側も田光川への斜面があり、さらに八風街道を眺望することができる優れた立地条件を持っていた。戦国時代の八風街道を支配するうえで重要な位置を占めていたと考えられる。

城郭は、林道によって二分されているが、草深い雑木林にそれらしい曲輪の雰囲気を感じ取ることができる。平坦な台地には城の主郭の面影があり、林道を挟んだ主郭北西側に土塁がかなり明確に認めら、弱点の北西側の防備を担ったと思われる。また、主郭南側には野面積み（のづらづみ）の石垣の一部が残っている。

## （５）八風大石、花市場、上之茶屋

切畑橋を渡らずに、八風キャンプ場への道標に従い西進すると、左方に大谷への道がある。この道をしばらく進むと、右手に巨大な石が現れる。このおよそ２０畳はあると推定される巨岩が「八風大石」であり、案内板に次のように由来が記されている。「八風街道沿いにあるこの大石は、龍神が宿るとして石の祠をつくり祀っている。古来奇石、巨岩は石神、磐座などといい神聖視されてきた。ここは、田光、切畑の共有山林で、この石より南九間程が杉谷との村境であるといわれ、動かぬ標石として大事にされてきた。また、この石の上で村人が寄合をすることもあったと伝えられている」。杉谷とは、隣の忍藩杉谷村のことであり、双方の入会（いりあい）地が、この地点で接していたのである。入会権に関わる小競り合いをこの巨岩の上の石作りの祠に祀る黒龍大神の前で、寄り合いを持って解決したのであろう。



八風の大石に向かわずに直進し、田光川を渡ると大字切畑字花市場である。この花市場は田光川の扇状台地に位置し、現在は、ごろごろと大きな花崗岩が散らばる砂の台地であり、雑木が密生している。

花市場は、木地師の大規模な村があったが、豪雨による濁流と山崩れによって一夜にして流出したと伝えられている。切畑の前身は、この花市場であり、近江の国の黄和田村の枝村であったといわれ（黄和田村は八風峠を越えた近江の村。木地師の里の君ヶ畑の燐村）、釈迦ヶ岳山麓、福王山から八風キャンプ場一帯にかけて豊富に生えていた欅・栃・栗などの木々を材料として、手挽ろくろを回して木地椀・皿・杓子などを作っていたと云われる（参考文献②）。

花市場の上流が、大字切畑字上之茶屋である。「茶屋」と云う街道につきものの地名から往時の八風街道の賑わいが思い浮かぶ。

参考文献
① 角川日本地名大辞典：三重県（角川書店 1983年刊（菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）
② 菰野町広報誌 歴史こばなし 第294回（菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）
③ 鈴鹿の山と谷３（西尾寿一著　1989年刊　ナカニシヤ出版　菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）
④ 菰野郷土史料の修正その二　刈田姫命（菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）
⑤ ふるさと田光・切畑　伎留太神社（菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）
⑥ 伊勢国朝明郡切畑村全図（古図）（菰野町図書館郷土史料ｺｰﾅｰ蔵）